

時間に追われながらも密度の濃い 3 週間を過ごし、授業や部活指導だけではなく、バレーボール大会参加や生徒たちとの交流など、たくさんの貴重な経験ができた実習だった。

実習の 1 週間前から教材研究を開始していたことで、実習初日に授業について担当の指導教諭との打合せができ、実習 1 週目の後半から授業をさせて頂くことにつながった。また、授業初日までに担当のクラス全員の生徒の顔と名前を覚え、名簿を見ずにスムーズな指名・呼びかけができたおかげで、生徒と早く打ち解けることができた。そして、実習初日から毎日、野球部の部活指導に参加し野球部員とのコミュニケーションを取っていたので、実習初期から野球部のつながりからもたくさんの生徒と打ち解けていくことができた。このように、早い段階からできることを考えて、いろいろな準備をしていたことが、実習の良いスタートにつながり、教育実習を密度の濃いものにすることができたと思う。

実習中は、事前授業で頂いたアドバイスから、「1.授業・授業研究、2.部活指導」という優先順位を意識し、普段の授業や学校生活の中でも時間を効率的に使えたように思う。授業見学や教材研究、指導案作成などに積極的に取り組み、現役の先生方にアドバイスをたくさん頂き、準備万端で授業に臨めたので、毎回の授業で常に反省・改善していったように思う。現場でしか経験できない、「授業」に関することは特に積極的に取り組もうと心がけていたことで、得られることが多かったのではないと思う。放課後は実習簿記入後、翌日の授業の打合せを指導教諭と行い、その後は 21 時まで野球部の練習に参加し、帰宅後はすぐに就寝するようにしていた。そして、4 時に起床し 2 時間ほど教材研究を行った後に出勤し、授業と校務を行い、空いた時間で生徒と関わったり教材研究を行ったりしていた。土日は、毎週午前中から夜まで野球部の練習・試合に参加していた。授業準備をしっかりとした上で毎日参加していた野球部でも、お世話になった監督や部長、部員たちと関わることができ、「指導者」という立場から、教師についてたくさん学ぶことができた。

この 3 週間、私が胸を張って言えることは、人よりも 2 倍、3 倍の密度のある時間を過ごせたことである。上に書いた通り、一日中、学校と関わるように心がけていたことで、「教師」を目指す者として学校のことを真剣に考え、生徒たちと多く関わることができた。

実習後、色紙や授業に関する感想文や記念に撮った写真などを、担当クラスの子たちだけでなく授業だけで訪れていた別のクラスの子たちからももらい、野球部からも部員や監督・部長からもメッセージを頂いた。実習最終日の前日に行われた校内バレーボール大会では、実習中に関わった生徒たちとたくさん写真を撮り、幸せな気持ちでいっぱいだった。生徒たちから「授業がわかりやすかった」「これからも授業を持って欲しい」と言ってもらえたことは、何よりも嬉しく、励ましになった。最終日には、できるだけ多くの生徒たちに感謝の気持ちを伝え、別れを惜しみながらも元気に挨拶をしてお互い頑張ろう、と言い合いながらさよならをした。

教育実習での経験は、他の何にも代えがたい、最も自分を励ましてくれるものだと思う。学校という場所は、生徒との関わりはもちろん、教員間の助けあい・協力を通して、教員自身も大きく成長できる場であると実感した 3 週間だった。